

## 第2章 医療部門

### 1 子ども心身医療センター

#### (1) 概要・診療体制

##### ア 概要

子ども心身医療センターは、札幌市子ども発達支援総合センター内にある診療所で、児童精神科、小児科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科の5科があり、原則18歳未満のお子さんを対象に心理治療やリハビリテーション（理学療法・作業療法・言語聴覚療法）、精神科デイケア、保育、家族支援、各種検査・相談等を行っている。

##### (ア) 児童精神科

乳幼児から思春期年齢（初診は15歳の中学生まで）のお子さんに対する精神科診療を行っている。ことばの遅れなどのコミュニケーションの問題のあるお子さんや、家庭や学校でのパニック、暴力といった問題行動、不登校・ひきこもりのお子さんなどを対象にしている。お子さんやご家族と相談した上、心理検査、心理治療、精神科デイケア、各種臨床検査を行っている。必要に応じて、薬物療法も実施している。医師、看護師、セラピスト（心理士）、作業療法士、ケースワーカーなどの専門職が協働し治療を行っている。

##### (イ) 小児科

運動発達の遅れや運動障がい疑われるお子さん、不器用なお子さん、ことばの発達に心配のあるお子さんなどを対象に診療を行っている。

##### (ウ) 整形外科

運動障がいや姿勢に異常があるお子さんを対象に診療を行っている。靴や車いす等の補装具に関する相談と処方も行っている。

##### (エ) 眼科

心身の発達に遅れのあるお子さんで、物の見え方や斜視の心配のあるお子さんを対象に診療を行っている。

##### (オ) 耳鼻咽喉科

心身の発達に遅れのあるお子さんで、主に耳の聞こえが心配なお子さんを対象に診療を行っている。

##### (カ) リハビリテーション

発達の遅れや心身に障がいのあるお子さんを対象に理学療法、作業療法、言語聴覚療法、外来保育を行っている。

##### (キ) 心理

医師の指示のもと、心理治療、心理検査などを行っている。更に関係機関との連携も必要に応じて行っている。

##### (ク) 精神科デイケア

児童精神科における外来治療のひとつ。同年代のメンバーやスタッフと一緒に様々な活動を

行っている。『安心して過ごせる場所がほしい』『同年代の友だちとかかわりたい』『規則正しい生活を送りたい』など、一人ひとりの希望や目標を大事にしている。

#### イ 診療体制（令和5年4月1日現在）

- (ア) 児童精神科 医師数2名（非常勤6名）
- (イ) 小児科 医師数2名（非常勤1名）
- (ウ) 整形外科 医師数0名（非常勤2名）  
（発達医療センターと兼務）
- (エ) 眼科 医師数0名（非常勤1名）
- (オ) 耳鼻咽喉科 医師数0名（非常勤1名）

#### ウ 診療件数

（単位：人）

区 分	児童精神科	小 児 科	整形外科	眼 科	耳鼻咽喉科	合 計
延べ患者数	8,712	8,467	693	13	33	17,918
実患者数	7,295	3,946	350	8	18	11,617
新患者数	188	160	32	7	15	402

#### エ 月別新患数

（単位：人）

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
児童精神科	19	16	16	19	16	17	16	14	14	15	14	12	188
小 児 科	12	12	16	15	17	13	15	14	12	14	9	11	160
整形外科	4	3	4	1	3	4	2	1	3	3	1	3	32
眼 科	0	2	0	2	0	2	0	1	0	0	0	0	7
耳鼻咽喉科	2	2	1	0	3	0	3	2	0	0	0	2	15
合 計	37	35	37	37	39	36	36	32	29	32	24	28	402

(2) 児童精神科

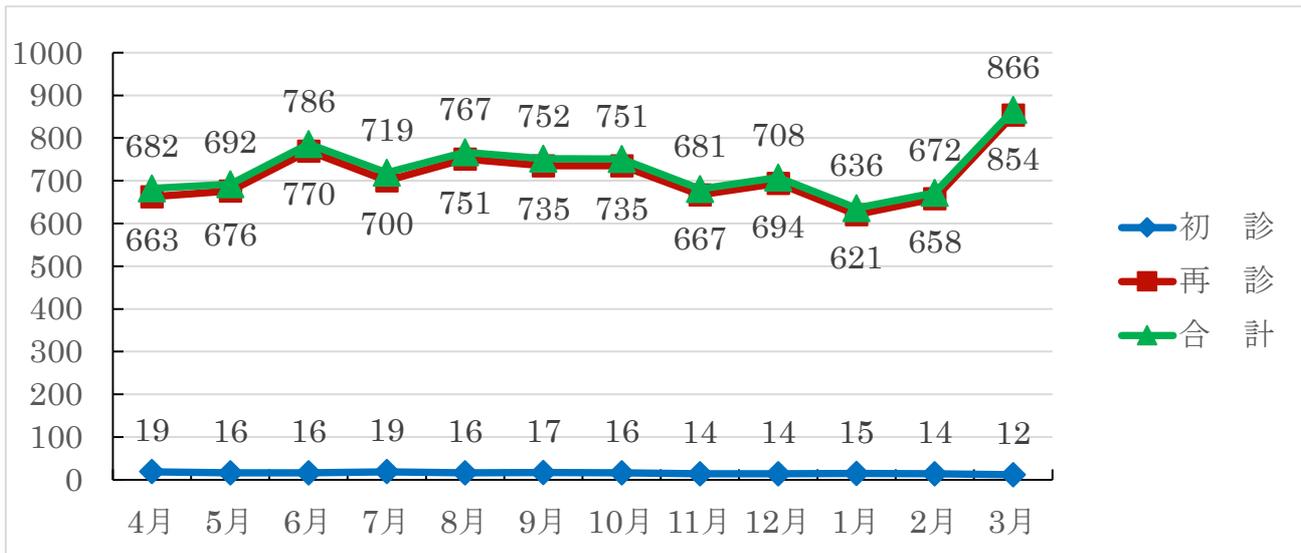
ア 月別患者数

(単位：人)

児童精神科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初診	19	16	16	19	16	17	16	14	14	15	14	12	188
再診	663	676	770	700	751	735	735	667	694	621	658	854	8,524
合計	682	692	786	719	767	752	751	681	708	636	672	866	8,712
実患者数	575	586	664	600	647	628	635	579	613	540	556	672	7,295

新患者は年間 188 名で、新患待機日数はおおむね 4 か月前後で推移している。

(単位：人)



イ 性別・年齢別・居住区別統計

(ア) 年齢別・年齢区別

(単位：人)

年齢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
件数	1	2	11	21	31	18	20	23	17	12
割合	0.5%	1.1%	5.9%	11.2%	16.5%	9.6%	10.6%	12.2%	9.0%	6.4%

年齢	11	12	13	14	合計
件数	15	7	5	5	188
割合	8.0%	3.7%	2.7%	2.7%	100%

年齢区分1	乳幼児	小1	小2	小3	小4	小5	小6
件数	79	17	21	17	16	12	15
割合	42.0%	9.0%	11.2%	9.0%	8.5%	6.4%	8.0%

年齢区分1	中1	中2	合計
件数	3	8	188
割合	1.6%	4.3%	100%

年齢別では5歳の初診が一番多く、以後はおおむね年齢ごとに減少している。

(イ) 性別

(単位：人)

性別	男	女	合計
人数	122	66	188
割合	64.9%	35.1%	100%

性別では男性が多くなっている。

(ウ) 居住市町村別

(単位：人)

市町村名	札幌市	石狩支庁	留萌支庁	空知支庁	合計
人数	180	6	1	1	188
割合	95.7%	3.2%	0.5%	0.5%	100%

(エ) 居住区別

(単位：人)

区名	豊平	白石	中央	南	清田	東	北	西	手稲	厚別	合計
人数	81	26	17	14	12	8	7	7	4	4	180
割合	45.0%	14.4%	9.4%	7.8%	6.7%	4.4%	3.9%	3.9%	2.2%	2.2%	100%

居住区では、95.7%が市内在住で、区別では豊平区が全体の半数近くを占めている。

ウ 初診時統計

(ア) 紹介元別一覧

(単位：人)

区 分	紹 介 元	人 数	割 合
医療機関	児童精神科	13	6.9%
	小児科（一般）	18	9.6%
	その他の科	1	0.5%
	精神科	4	2.1%
	〈 小 計 〉	36	19.1%
行政機関	保健センター・保健所	23	12.2%
	〈 小 計 〉	23	12.2%
教育機関	小学校・スクールカウンセラー	11	5.9%
	〈 小 計 〉	11	5.9%
障害福祉 関係機関	児童発達支援事業所(デイサービス)	2	1.1%
	児童発達支援センター	1	0.5%
	〈 小 計 〉	3	1.6%
紹介状なし		115	61.2%
合 計		188	100.0%

紹介元別では、保健センター・保健所からの紹介が12.2%と最も多く、その中でも乳幼児健診あるいは児童発達相談からの受診が大半を占めている。

61.2%が紹介状なしで受診されているが、実際は他機関から勧められて受診されているケースが大半である。教育機関からの紹介も多く、医師が教員・保育士等と情報交換を行う機会も増えている。

## (イ) 初診時主訴別統計

(単位：人)

初 診 時 主 訴	人 数	割 合
コミュニケーションや対人関係などの社会性の問題を主訴に受診した群	39	20.7%
多動、衝動性、不注意などのAD/HD症状を呈していた群	34	18.1%
パニックやかんしゃくが問題であった群	28	14.9%
乳幼児期のことばの遅れ、発達の心配が問題であった群	18	9.6%
学習の問題を訴えていた群	12	6.4%
不安症状により受診した群	12	6.4%
不登校が問題の中心となっていた群	9	4.8%
運動の問題が中心となっていた群	3	1.6%
身体疾患の治療をすでに行っていたが改善なく、受診時に身体の症状を訴えていた群	3	1.6%
睡眠の問題が中心となっていた群	3	1.6%
粗暴行為が問題の中心となっていた群	2	1.1%
チック症状により受診した群	2	1.1%
強迫症状により受診した群	2	1.1%
自傷・自殺関連行動が中心となっていた群	1	0.5%
特児・診断書のため	1	0.5%
ネット・ゲーム依存が問題の中心となっていた群	1	0.5%
その他	18	9.6%
合 計	188	100%

コミュニケーションや対人関係などの社会性の問題を主訴に受診した群が 20.7%と最も多く、次いで多動、衝動性、不注意などのAD/HD症状を呈していた群が 18.1%、パニックやかんしゃくが問題であった群が 14.9%で、この3項目で約半数を占めている。

## (ウ) 初診時診断別統計 1

(単位：件)

初診時 ICD 診断 (複数診断)	第 1 病 名	第 2 病 名	第 3 病 名	合 計	割 合
F40 恐怖症性不安障害	1	0	0	1	0.5%
F41 その他の不安障害	6	0	0	6	3.2%
F42 強迫性障害	2	0	0	2	1.1%
F43 重度ストレスへの反応及び適応障害	2	3	0	5	2.7%
F45 身体表現性障害	1	0	0	1	0.5%
F50 摂食障害	1	0	0	1	0.5%
F51 非器質性睡眠障害	1	1	2	4	2.1%
F70-F79 知的障害〈精神遅滞〉	5	10	0	15	8.0%
F80 会話及び言語の特異的発達障害	1	0	0	1	0.5%
F81 学習能力の特異的発達障害	4	10	4	18	9.6%
F82 運動機能の特異的発達障害	2	3	6	11	5.9%
F84 広汎性発達障害	114	28	1	143	76.1%
F90 多動性障害	27	20	5	52	27.7%
F91 素行障害	2	0	0	2	1.1%
F92 行為及び情緒の混合性障害	4	1	1	6	3.2%
F93 小児期に特異的に発症する情緒障害	1	2	1	4	2.1%
F94 小児期及び青年期に特異的に発症する社会的機能の障害	6	2	0	8	4.3%
F95 チック障害	3	2	0	5	2.7%
その他	1	1	0	2	1.1%
精神科的問題なし	4	0	0	4	2.1%
合 計	188	83	20	291	

初診時に複数の診断名をつけられた患者が83名おり、うち20名は3つの診断名をつけられている。初診時の診断名では、広汎性発達障害が新患の76.1%についており最多で、続いて多動性障害(27.7%)、学習能力の特異的発達障害(9.6%)となっている。

## (エ) 初診時診断別統計 2

(単位：件)

初診時 DSM 診断 (複数診断)	第 1 病 名	第 2 病 名	第 3 病 名	合 計	割 合
自閉スペクトラム症/自閉症スペクトラム障害	113	27	1	141	75.0%
注意欠如・多動症/注意欠如・多動性障害	27	22	5	54	28.7%
限局性学習症/限局性学習障害	3	10	4	17	9.0%
不安症群/不安障害群	12	3	1	16	8.5%
知的能力障害群	6	9	0	15	8.0%
運動症群/運動障害群	2	3	7	12	6.4%
心的外傷およびストレス因関連障害群	5	2	0	7	3.7%
チック症群/チック障害群	3	2	0	5	2.7%
コミュニケーション症群/コミュニケーション障害群	4	1	0	5	2.7%
秩序破壊的・衝動制御・素行障害	3	1	0	4	2.1%
精神科的問題なし	4	0	0	4	2.1%
睡眠-覚醒障害群	1	2	1	4	2.1%
強迫症および関連症群/強迫性障害および関連障害群	2	0	0	2	1.1%
身体症状症および関連症群	0	1	0	1	0.5%
食行動障害および摂食障害群	1	0	0	1	0.5%
その他	2	1	0	3	1.6%
合 計	188	84	19	291	

初診時の診断では、自閉症スペクトラム障害の診断を受けている患者が 75.0%であり、新患の大半を占めている。その他の診断では、注意欠如・多動症/注意欠如・多動性障害 (28.7%) と限局性学習症/限局性学習障害 (9.0%) が多くなっている。

(3) 小児科

ア 月別患者数

(単位：人)

小児科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初診	12	12	16	15	17	13	15	14	12	14	9	11	160
再診	588	602	715	698	678	706	676	709	684	698	741	812	8,307
合計	600	614	731	713	695	719	691	723	696	712	750	823	8,467
実患者数	288	290	325	319	334	322	325	334	333	350	347	379	3,946

イ 新患の居住区分及び年齢

(単位：人)

区 分	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6～11歳	12歳～	合計	比率
中央区	0	3	4	5	1	1	2	0	16	10.0%
北区	0	4	4	1	0	0	0	0	9	5.6%
東区	2	6	2	0	1	1	0	0	12	7.5%
白石区	8	9	1	3	3	2	1	0	27	16.9%
厚別区	1	2	0	0	0	0	0	0	3	1.9%
豊平区	8	12	10	12	5	2	3	0	52	32.5%
清田区	4	8	1	1	0	0	1	0	15	9.4%
南区	1	6	6	3	0	0	1	0	17	10.6%
西区	0	0	1	2	1	0	0	0	4	2.5%
手稲区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
札幌市計	24	50	29	27	11	6	8	0	155	96.9%
市 外	0	2	0	1	1	0	0	1	5	3.1%
合 計	24	52	29	28	12	6	8	1	160	100%
比 率	15.0%	32.5%	18.1%	17.5%	7.5%	3.8%	5.0%	0.6%	100%	

近隣の豊平区、白石区の新患数が約半数を占めている。年齢別では保健センターの健診からの紹介患者が多いため、4歳未満の新患数が全体の約8割を超えている。

ウ 新患紹介元一覧

(単位：人)

区 分	紹 介 機 関 名	新患数	比率 (%)
札幌市保健センター	中央	4	47.5%
	北	1	
	東	10	
	白石	19	
	厚別	0	
	豊平	25	
	清田	9	
	南	8	
	西	0	
	手稲	0	
		〈 小 計 〉	
医 療 機 関	北海道大学病院	9	30.0%
	北海道立子ども総合医療・療育センター	2	
	札幌医科大学附属病院	1	
	勤医協札幌病院	1	
	市立札幌病院	6	
	天使病院	10	
	JCHO 北海道	6	
	札幌徳洲会病院	2	
	月寒こどもクリニック	2	
	むぎのこ発達クリニック	1	
	榆の会こどもクリニック	0	
	北野通こどもクリニック	2	
	札幌市内病院（発達医療センター含む）	2	
	札幌市外病院	4	
		〈 小 計 〉	
子ども心身医療センター内	児童精神科	0	1.3%
	整形外科	2	
		〈 小 計 〉	
関 係 機 関	札幌市内子ども発達支援	1	2.5%
	市外発達支援センター/市外保健センター	3	
		〈 小 計 〉	
教 育 機 関	保育園	0	0.0%
	幼稚園	0	
		〈 小 計 〉	
そ の 他	親自身の判断で（地域支援経由）	28	18.8%
	兄弟姉妹の受診時主治医に勧められた	2	
		〈 小 計 〉	
合 計		160	100.0%

保健センター・他の医療機関からの紹介が多い。

エ 初診時診断名

保健センターの健診からの紹介患者が多いため、「発達遅滞・発達障がい」と「聴覚言語障がい」の患者数が多くなっている。

(単位：件)

分類区分／名称	病 名	新 患	小 計	比 率
脳 性 麻 痺	脳性麻痺	3	3	1.9%
脳・脊髄疾患後遺症	脳室内出血	1	1	0.6%
	脳梗塞後	0		
神経・筋疾患	筋ジストロフィー（エメリー・ドレイフス）	1	1	0.6%
	脊髄性筋萎縮症	0		
先 天 異 常	先天性サイトメガロウイルス感染症	1	1	0.6%
	ソトス症候群	0		
	ファロー四徴症+その他心疾患	0		
内分泌・代謝異常	ミトコンドリア脳筋症	1	1	0.6%
染色体異常	ダウン症候群	7	10	6.3%
	先天性奇形症候群	1		
	その他の染色体異常	2		
骨・関節疾患	内反足	0	0	0.0%
	先天性多発関節拘縮	0		
けいれん性疾患	オプクローヌスミオクローヌス症候群	0	0	0.0%
発達遅滞・発達障がい	運動発達遅滞	38	128	80.0%
	精神運動発達遅滞	9		
	自閉スペクトラム症（ASD）	60		
	不安症	2		
	知的能力障害群（ID）	5		
	注意欠陥・多動症（ADHD）	7		
	社会的コミュニケーション症（SCD）	1		
	トゥレット症候群	1		
	発達性協調運動症（DCD）	5		
聴覚言語障がい	言語発達遅滞（表出性）	4	5	3.1%
	構音障がい	1		
その他	早産 低出生・超低出生児	7	10	6.3%
	その他	3		
合 計		160	160	100%

(4) 整形外科

ア 月別患者数

(単位：人)

整形外科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初診	4	3	4	1	3	4	2	1	3	3	1	3	32
再診	59	59	58	56	66	43	60	36	41	60	46	77	661
合計	63	62	62	57	69	47	62	37	44	63	47	80	693
実患者数	30	20	20	22	25	24	20	19	18	50	41	61	350

イ 新患の居住区分及び年齢

(単位：人)

区分	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6～11歳	12歳～	合計	比率
中央区	0	0	0	0	0	0	1	0	1	3.1%
北区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
東区	0	2	2	0	1	0	1	1	7	21.9%
白石区	0	0	3	0	0	1	1	0	5	15.6%
厚別区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
豊平区	0	3	1	0	1	0	3	0	8	25.0%
清田区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
南区	0	1	0	0	1	1	1	0	4	12.5%
西区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
手稲区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
札幌市計	0	6	6	0	3	2	7	1	25	78.1%
市外	0	2	0	2	0	0	1	2	7	21.9%
合計	0	8	6	2	3	2	8	3	32	100%
比率	0.0%	25.0%	18.8%	6.3%	9.4%	6.3%	25.0%	9.4%	100%	

ウ 新患紹介元一覧

(単位:人)

区分	紹介機関名	新患数	比率
医療機関	さっぽろ小児内分泌クリニック	0	31.3%
	北大病院	0	
	北海道立子ども総合医療・療育センター	3	
	天使病院	0	
	市内医療機関	5	
	市外医療機関	2	
	〈小計〉	10	
子ども心身医療センター内	児童精神科	2	56.3%
	小児科	14	
	リハビリテーション担当者	2	
	〈小計〉	18	
関係機関	札幌市内通園施設	1	9.4%
	札幌市外療育センター/通園施設	2	
	〈小計〉	3	
その他	親自身の判断で	1	3.1%
	その他	0	
	〈小計〉	1	
合計		32	100%

子ども心身医療センター内と他の医療機関からの紹介患者でほぼ占められている。

エ 初診時診断名

(単位：件)

分類区分／名称	病 名	新 患	小 計	比 率
脳性麻痺	脳性麻痺	1	1	3.1%
脳・脊髄疾患後遺症	頭蓋内出血後		0	0.0%
	脳室周囲白質軟化症			
	脳梗塞後			
神経・筋疾患	ウリヒ型先天性筋ジストロフィー		0	0.0%
	福山型先天性筋ジストロフィー			
先天異常	カブキメイキャップ症候群		0	0.0%
	ソトス症候群			
	ファイファー症候群			
	心室中隔欠損術後			
	先天性左阪神経低形成症			
	ビタミンD欠乏型くる病			
	総排泄腔外反症			
染色体異常	ダウン症候群	4	5	15.6%
	その他染色体異常	1		
内分泌・代謝異常	ミトコンドリア病		0	0.0%
けいれん性疾患	ミオクローヌス症候群		0	0.0%
骨・関節疾患	左下肢低形成症	1	23	71.9%
	前脛骨筋症候群	1		
	脊椎湾曲症	11		
	〇脚	2		
	右腓骨神経麻痺後遺症	1		
	両股関節臼蓋不全症	2		
	両内転足	1		
	両肘橈尺関節癒合症	1		
	両小趾槌趾変形	1		
	ブラント病	2		
	発達遅滞・発達障がい	運動発達遅滞		
協調運動障がい		1		
精神運動発達遅滞		2		
その他	その他の疾患	0		
合 計		32	32	100%

(5) 眼科

ア 月別患者数

(単位：人)

眼科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初診	0	2	0	2	0	2	0	1	0	0	0	0	7
再診	0	3	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	6
合計	0	5	0	3	0	2	0	1	0	2	0	0	13
実患者数	0	3	0	2	0	0	0	1	0	2	0	0	8

2か月ごとの診察。学校健診・視力検査練習のケースが多かった。

(6) 耳鼻咽喉科

ア 月別患者数

(単位：人)

耳鼻咽喉科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初診	2	2	1	0	3	0	3	2	0	0	0	2	15
再診	3	1	4	0	1	0	1	2	2	0	0	4	18
合計	5	3	5	0	4	0	4	4	2	0	0	6	33
実患者数	1	2	1	0	2	0	3	1	2	0	0	6	18

イ 聴力検査数

(単位：件)

COR	11	TG	10	プレイオージオ	11
AG	0	DPOAE	0		

(7) リハビリテーション

ア リハビリテーション件数

(単位：件)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
理学療法	221	211	244	247	249	227	235	255	238	259	258	308	2,952
作業療法	195	224	242	237	213	232	224	210	215	208	234	251	2,685
言語聴覚療法	87	94	104	104	108	113	108	115	109	124	120	166	1,352
合 計	503	529	590	588	570	572	567	580	562	591	612	725	6,989

イ リハビリテーション実数

(単位：人)

区 分	理学療法	作業療法	言語聴覚療法
年間人数	253	365	158
職員1人の担当数	55.0	73.0	52.7

ウ 診療科別リハビリテーション指示数

(単位：人)

区 分	小 児 科	整形外科	児童精神科	合 計
理学療法	51	2	0	53
作業療法	44	0	52	96
言語聴覚療法	31	0	19	50
合 計	126	2	71	199

エ 年齢別のリハビリテーション状況

(単位：人)

区 分	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6～ 11歳	12～ 14歳	15～ 17歳	18歳 ～	合計
理学療法のみ	3	37	31	12	2	3	33	22	16	6	165
作業療法のみ	0	3	10	37	33	23	112	24	11	1	254
言語聴覚療法のみ	1	3	2	3	9	14	26	5	2	0	65
理学+作業療法	0	1	0	3	4	3	24	14	10	3	62
理学+言語聴覚療法	1	12	7	4	2	0	4	2	0	0	32
作業+言語聴覚療法	0	0	2	3	6	14	10	4	0	0	39
理学+作業+言語聴覚療法	0	0	0	0	0	4	18	9	2	0	33
合 計	5	56	52	62	56	61	227	80	41	10	650

※年度途中のリハ終了児およびリハ種別変更児も含める。

(8) 外来保育

ア 対象児童

当センター小児科を受診している就学前のお子さんを対象に集団保育、個別保育を行っている。  
 集団保育は、通園、保育園、幼稚園、デイサービスなど他の施設を利用する場合は終了となる。

イ 保育形態

「のびのび広場」「個別保育」の2形態で実施

	方法	頻度	対象年齢	人数	時間
のびのび広場	集団保育 (5グループ)	週1回	0歳児から	1グループ° 親子2~4名	午前2時間
個別保育	個別保育	週1回程度	0歳児から	親子1組	1時間

ウ 「のびのび広場」実施状況

(単位：人)

疾患名	年 齢						合計
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	
神経発達症	1	7	5	1	0	0	14
脳性麻痺と知的発達症	0	0	1	0	0	0	1
合 計	1	7	6	1	0	0	15

エ 「個別保育」実施状況

(単位：人)

疾患名	年 齢						合計
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	
神経発達症	4	12	3	1	0	0	20
脳性麻痺と知的発達症	0	0	1	0	0	0	1
脳性麻痺と神経発達症	1	0	0	0	0	0	1
染色体・遺伝子異常	1	0	0	1	0	0	2
合 計	6	12	4	2	0	0	24

## (9) 心理

### ア 心理治療

医師からの指示により、セラピスト(心理士)による心理治療を行っている。実施に際してはアセスメントをもとに、医師とセラピストが通院頻度や内容などを検討し開始している。

<年齢別患者数>

(単位：人)

区 分	心理治療					
	乳幼児	小学生	中学生	中卒以上	保護者	合計
4月	0	46	47	8	1	102
5月	0	51	53	8	3	115
6月	1	48	50	7	0	106
7月	0	51	55	8	2	116
8月	1	46	51	8	4	110
9月	1	46	52	11	3	113
10月	0	49	45	9	5	108
11月	0	56	37	7	4	104
12月	0	54	44	9	7	114
1月	3	53	43	9	3	111
2月	0	53	35	9	2	99
3月	0	64	52	9	3	128
合 計	6	617	564	102	37	1326

<年齢別実人数>

(単位：人)

乳幼児	小学生	中学生	中卒以上	合計
6	70	32	8	116

発達障害の乳幼児の心理治療の場合、多くは母子同室の形態をとっている。心理治療では子どもの発達を支援するとともに、母子関係の不調和が生じやすい母子に対して、積極的な働きかけを行い、母子関係の結びつきを深めるとともに、とかくぎくしゃくしがちな母子関係の修復を図ること、達成感や楽しみをセラピストや保護者と共有すること、子どもを理解することの援助などを目的としている。

学齢期以降の、不適応行動や不登校、被虐待児などの子どもの心理治療の場合は、その子の課題、問題に対して焦点を当て、心理的アプローチを行っている。子どもの場合、内面の葛藤を言語化して表現することが難しい場合も多く、非言語的アプローチとしてプレイセラピー、箱庭療法、描画療法などを用いることもある。また、認知行動療法やトラウマに焦点を当てた心理治療なども行っている。

## イ 心理検査

発達検査及び知能検査、人格検査、認知機能検査その他の心理検査などを組み合わせて実施している。児童精神科、小児科それぞれから医師の指示を受けて実施している。

令和4年度の検査実施人数は617件となり内訳は下のようになっている。

<検査数>年度後半に小児科からのオーダーが増えてきている。児童精神科は小学生が半数以上を占め、小児科は幼児が8割以上を占めている

(単位：件)

実人数	児童精神科				小児科				合計
	幼児	小学生	中学生	中卒以上	幼児	小学生	中学生	中卒以上	
計	129	202	48	11	192	31	4	0	617
種別計	390				227				617

<検査の内訳>精神科は一人に対して、複数の検査を組み合わせるケースが多く実際の検査数は実人数の1.4倍近くになる。また読み書きに関する検査など、診療報酬に算定できないものも増えている。小児科は発達及び知能検査が主である

(単位：件)

区 分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
児童精神科	発達及び知能検査	23	26	23	27	45	28	28	37	25	35	28	25	350
	人格検査	10	9	7	8	5	7	5	7	8	8	11	5	90
	認知機能検査 その他の心理検査	8	5	6	4	4	4	9	6	7	10	3	12	78
	その他(診療報酬算定できない心理検査)	5	7	4	2	9	4	9	11	7	5	6	11	80
	合 計	46	47	40	41	63	43	51	61	47	58	48	53	598
	実施件数(実人数)	26	32	27	27	48	28	36	34	28	39	33	33	391
小児科	発達及び知能検査	18	16	25	23	18	15	18	21	18	16	22	17	227
	人格検査	0	1	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	4
	認知機能検査 その他の心理検査	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
	その他(診療報酬算定できない心理検査)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	合 計	19	17	25	23	18	15	20	21	18	17	22	19	234
	実施件数(実人数)	19	15	23	23	17	15	19	21	20	16	21	17	226

区 分	主な検査の種類
発達及び知能検査	遠城寺式・乳幼児分析的発達検査、新版 K 式発達検査 2001、WISC-IV 知能検査、鈴木ビネー知能検査等
人格検査	バウムテスト、SCT、P-F スタディ、ロールシャッハ・テスト、描画テスト等
認知機能検査・その他の心理検査	音読検査（特異的発達障害を対象にしたもの）、ベントン視覚記名検査、ベンダーゲシュタルトテスト、K-ABC II、PARS-TR 等
その他（診療報酬算定できない心理検査）	STRAW-R、ひらがな聴写テスト、感覚プロファイル、KIDS 乳幼児発達スケール、算数障害のための症状評価のための課題、S-HTP、TSCC、AN-EGOGRAM 等

#### ウ 親支援プログラム（ペアレント・トレーニング）

児童精神科の場合、子どもの治療だけでなく、その子どもを養育している保護者、親に対する支援も重要と考えている。これまで継続して行ってきた親支援プログラムであったが、感染症対策の一環として、集団を対象にした支援は休止している。ただしニーズの高いご家族に対しては、本来は集団で取り扱うペアレント・トレーニングではあるが、各家庭を対象に個別的なペアレント・トレーニングを実施している。

### （10）精神科デイケア

#### ア 業務概要

- （ア）対 象 小学校高学年～中学生
- （イ）実施日数 週 1 日（水曜日）実施
- （ウ）実施時間 9：30～15：30（ショートケアは午前若しくは午後の 3 時間のみ）
- （エ）スタッフ 医師 1 名、看護師 1 名、セラピスト 1 名

#### イ 利用者数

（単位：人）

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ患者数	2	2	2	3	2	3	9	11	8	6	10	10	68
開所日数	2	2	2	3	2	3	4	4	3	4	4	5	38
1日平均	1	1	1	1	1	1	2.3	2.8	2.7	1.5	2.5	2	1.65
実人数	1	1	1	1	1	1	3	3	3	3	3	3	2

ウ 学年別実人数

(単位：人)

小学6年生	1
中学1年生	1
中学2年生	1
合計	3

エ プログラム

	水曜日
9:30～9:45	朝の会
9:45～10:30	自主学習
10:30～10:35	準備時間
10:35～11:50	スポーツ（毎月1・3・5週目） レクリエーション（毎月2週目） 創作活動（毎月4週目）
11:50～12:10	準備時間
12:10～13:00	昼食・昼休み
13:00～14:30	自由活動
14:30～15:00	ふりかえり・帰りの会
15:00～15:30	面談・相談時間

自主学習・・・持参したワークでの学習、読書など。

スポーツ・・・バドミントン、サッカー、鬼ごっこなど。

レクリエーション・・・メンバー全員で行う活動を話し合いで決めて取り組む(スポーツ、ボードゲームなど。

創作活動・・・イラスト、ビーズ細工、木工、調理など。

自由活動・・・ゲーム（カードゲーム、携帯ゲーム機）、卓球、ビリヤードなど。

面談・相談時間・・・定期的にスタッフと面談をする。

オ 年間行事

7月 夏の行事（センター内でバーベキュー）

10月 秋の社会見学(円山動物園)

11月 家族会

12月 クリスマス会

1月 新年会（鍋パーティ）、初詣(相馬神社)

3月 お別れ会

## (11) その他

## ア 臨床検査

(単位：人)

区 分		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
臨床検査	血液	17	20	43	31	38	22	22	39	41	26	19	32	350
	尿,その他	0	1	1	1	1	0	0	2	1	2	0	1	10
脳波検査		12	15	22	17	22	17	14	15	18	11	9	11	183
心電図検査		4	1	4	2	4	4	6	2	1	2	1	2	33

## イ レントゲン

(単位：人)

区 分		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
X 線 撮 影	児童精神科	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	3
	小児科	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	4
	整形外科	94	102	101	105	109	84	94	54	86	104	91	99	1,123
	耳鼻咽喉科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合 計	94	102	101	105	113	85	95	55	86	104	91	99	1130

## 2 発達医療センター

### (1) 概要・診療体制

#### ア 概要

発達医療センターは、札幌市児童福祉総合センターの3階にある診療所で、小児科、整形外科の2科があり、原則18歳未満のお子さんを対象に運動発達の遅れや身体の障がい疑われるお子さんを早期に診断し、治療やリハビリテーション（理学療法・作業療法・言語聴覚療法）、家族支援などを行っている。平成27年度は、改修工事のため休診し、子ども心身医療センター内にて診療を行っていたが、平成28年度からは子ども心身医療センターとの2か所に機能を分割し再開した。

#### (ア) 小児科

運動発達の遅れや運動障がい疑われるお子さん、不器用なお子さん、ことばの発達に心配のあるお子さんなどを対象に診療を行っている。

#### (イ) 整形外科

運動障がいや姿勢に異常があるお子さんを対象に診療を行っている。靴や車いす等の補装具に関する相談と処方も行っている。

#### (ウ) リハビリテーション

発達の遅れや心身に障がいのあるお子さんを対象に理学療法、作業療法、言語聴覚療法を行っている。

### イ 診療体制（令和5年4月1日現在）

(ア) 小児科 医師数2名

(イ) 整形外科 医師数1名（非常勤医師・子ども心身医療センターと兼務）

### ウ 診療件数

（単位：人）

区分	小児科	整形外科	合計
延べ患者数	3,761	530	4,291
新患者数	61	16	77

### エ 月別新患者数

（単位：人）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
小児科	6	4	8	5	11	5	3	2	5	3	3	6	61
整形外科	2	2	1	2	2	0	4	3	0	0	0	0	16
合計	8	6	9	7	13	5	7	5	5	3	3	6	77

(2) 小児科

ア 月別患者数

(単位：人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初診	6	4	8	5	11	5	3	2	5	3	3	6	61
再診	293	321	331	324	321	314	307	283	265	319	288	334	3,700
合計	299	325	339	329	332	319	310	285	270	322	291	340	3,761
実患者数	157	175	179	180	180	163	167	149	145	170	161	174	2,000

イ 新患の居住区分及び年齢

(単位：人)

区分	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6～ 11歳	12歳 ～	合計	比率
中央区	3	4	2	1	2	2	3	0	17	27.9%
北区	1	5	1	0	1	0	0	0	8	13.1%
東区	3	3	2	1	0	0	0	1	10	16.4%
白石区	5	4	0	0	0	0	0	0	9	14.8%
厚別区	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1.6%
豊平区	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1.6%
清田区	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1.6%
南区	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1.6%
西区	3	5	1	0	0	0	0	0	9	13.1%
手稲区	1	2	0	0	1	0	0	0	4	6.6%
札幌市計	19	24	6	2	4	2	3	1	61	100%
市外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
合計	19	24	6	2	4	2	3	1	61	100%
比率	31.1%	39.3%	9.8%	3.3%	6.6%	3.3%	4.9%	1.6%	100%	

ウ 新患紹介元一覧

(単位：人)

区 分	紹 介 機 関 名	新患数	比率 (%)
札幌市保健センター	中央	3	55.7%
	北	7	
	東	7	
	白石	9	
	厚別	1	
	豊平	1	
	西	4	
	手稲	2	
	〈 小 計 〉	34	
医療機関	札幌医科大学付属病院	3	31.1%
	NTT 病院	1	
	北海道立子ども総合医療・療育センター	4	
	北海道医療センター	1	
	市立札幌病院	1	
	天使病院	6	
	北大病院	1	
	札幌市内診療所	2	
	〈 小 計 〉	19	
その他	親自身の判断で	8	13.1%
	〈 小 計 〉	8	
	合計	61	100.0%

保健センターと医療機関からの紹介患者がほとんどである。

エ 初診時診断名

(単位：人)

分類区分／名称	病 名	新 患	小 計	比率
脳 性 麻 痺	脳性麻痺	2	2	3.7%
脳・脊髄疾患後遺症	片麻痺	1	1	1.6%
変性疾患				
先天異常				
染色体異常	ダウン症候群	6	6	13.1%
	ターナー症候群	1	1	
	13トリソミー症候群	1	1	
内分泌・代謝異常				
骨・関節疾患				
発達遅滞・発達障がい	運動発達遅滞	38	42	68.8%
	協調運動障がい	3		
	精神運動発達遅滞	1		
聴覚言語障がい	言語発達遅滞	2	7	11.4%
	言語障がい	0		
	構音障がい	5		
合 計			61	100%

保健センターの健診と医療機関からの紹介患者が多いこと、発達医療センターは主に運動発達の遅れや身体の障がい疑われるお子さんを対象としているため「発達遅滞・発達障がい」の患者数が多い。

(3) 整形外科

ア 月別患者数

(単位：人)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初 診	2	2	1	2	2	0	4	3	0	0	0	0	16
再 診	45	46	42	42	61	38	43	41	36	39	42	39	514
合 計	47	48	43	44	63	38	47	44	36	39	42	39	530
実患者数	23	20	13	15	24	16	24	21	16	33	33	34	272

イ 新患の居住区分及び年齢

(単位：人)

区 分	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6～11歳	12歳～	合計	比 率
中央区	0	0	3	1	1	0	0	0	5	31.2%
北 区	0	1	0	1	0	0	0	0	2	12.5%
東 区	0	0	1	0	0	0	0	2	3	18.7%
白石区	0	0	1	1	0	0	0	0	2	12.5%
厚別区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
豊平区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
清田区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
南 区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
西 区	0	1	1	1	0	0	0	0	3	18.7%
手稲区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
札幌市計	0	2	6	4	1	0	0	2	15	93.7%
市 外	0	1	0	0	0	0	0	0	1	6.2%
合 計	0	3	6	4	1	0	0	2	16	100%
比 率	0%	18.7%	37.5%	25.0%	6.2%	0%	0%	12.5%	100%	

ウ 新患紹介元一覧

(単位：人)

区 分	紹 介 機 関 名	新患数	比 率
医療機関	天使病院	2	18.7%
	札幌医大病院	1	
	〈 小 計 〉	3	
発達医療センター内	発達医療センター小児科	11	68.7%
	〈 小 計 〉	11	
関係機関	みかほ整肢園	1	6.2%
	〈 小 計 〉	1	
その他	紹介状なし	1	6.2%
	〈 小 計 〉	1	
合 計		16	100%

エ 初診時診断名

(単位：人)

分類区分／名称	病 名	新 患	小 計	比 率
脳性麻痺		0	0	0.0%
脳・脊髄疾患後遺症	片麻痺	1	1	6.2%
神経・筋疾患		0	0	0.0%
神経皮膚症候群		0	0	0.0%
変性疾患		0	0	0.0%
先天異常	滑脳症	1	2	12.5%
	ベックウィズヴィーデマン症候群	1		
染色体異常	ダウン症候群	3	4	25.0%
	クラインフェルター症候群	1		
けいれん性疾患	ウエスト症候群	1	1	6.2%
内分泌・代謝異常		0	0	0.0%
骨・関節疾患	脊柱湾曲症	2	2	11.5%
発達遅滞・発達障がい	協調運動障がい	3	6	38.4%
	運動発達遅滞	3		
その他		0	0	0.0%
合 計		16	16	100%

(4) リハビリテーション

ア リハビリテーション件数

(単位：件)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
理学療法	240	263	266	274	261	252	265	236	221	255	221	267	3,021
作業療法	99	106	111	114	94	113	115	94	79	113	104	112	1,254
言語聴覚療法	32	51	65	56	53	57	37	48	42	56	55	46	598
合 計	371	420	442	444	408	422	417	378	342	424	380	425	4,873

イ リハビリテーション実数

(単位：人)

区 分	理学療法	作業療法	言語聴覚療法
年間人数	201	100	66
職員1人の担当数	50.3	62.5	33.0

ウ 診療科別リハビリテーション指示数

(単位：人)

区 分	小 児 科	整形外科	合 計
理学療法	17	1	18
作業療法	7	0	7
言語聴覚療法	12	0	12
合 計	36	1	37

エ 年齢別のリハビリテーション状況

(単位：人)

区 分	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6～ 11歳	12～ 14歳	15～ 17歳	18歳 ～	合計
理学療法のみ	0	8	10	6	4	4	28	18	13	17	108
作業療法のみ	0	0	0	1	0	0	7	1	3	0	12
言語聴覚療法のみ	0	1	0	2	1	4	8	0	1	0	17
理学+作業療法	0	0	2	4	4	2	24	11	20	1	68
理学+言語聴覚療法	0	4	2	3	3	5	4	1	0	0	22
作業+言語聴覚療法	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3
理学+作業+言語聴覚療法	0	0	0	0	3	2	10	9	3	0	27
合 計	0	13	14	16	16	19	81	40	40	18	257

※年度途中のリハ終了児及びリハ種別変更児も含める

(5) その他

ア レントゲン

(単位：人)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
小児科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
整形外科	24	25	19	23	36	15	23	24	15	16	15	17	252